

【 日 出 町 】

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校）

1 調査結果の分析

小学校：国語

※赤数字は全国の正答率を下回るもの

小学校 6年生 国語	平均正答率		観点別正答率							
	知識	活用	A：主として知識				B：主として活用			
			話す聞く 能力	書く能力	読む能力	言語につい ての知識 理解技能	国語への 関心・意欲 態度	話す・聞く 能力	書く能力	読む能力
全国	74.8	57.5	69.2	60.6	70.2	78.0	41.7	64.9	53.4	49.2
県	76.0	58.0	69.6	62.1	71.2	79.8	43.1	65.0	54.7	49.7
日出町	80.0	60.0	78.5	63.7	73.5	83.1	44.2	70.6	57.3	46.9

○平均正答率は、知識、活用ともに全国を上回っている。

○観点別正答率は、A問題では全ての観点で全国を上回っている。B問題では「読む能力」を除いては、全国を上回っている。

○A問題の、「手紙の後付けに必要な日」付、署名、宛名のそれぞれの位置について、適切なものを選択する。」問題は、正答率が45.6%で案内文や礼状など実用的な文章としての手紙を書くことに課題がある。社会見学でお世話になった方へのお礼など国語科と他教科との関連を図ることが必要である。

○B問題では、「物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめることができるか。」の問題は、39.3%（全国43.9%）で全国の正答率より低く、無回答率も17.8%（全国19.3%）であり、課題が残る。

○正答率が60%未満の児童の割合は、A問題では6.2%（全国15.3%）、B問題では、45.5%（全国51.4%）であり、全国と比較しても下位層の割合は減少してきている。

小学校：算数

※赤数字は全国の正答率を下回るもの

小学校 6年生 算数	平均正答率		観点別正答率				
	知識	活用	A：主として知識		B：主として活用		
			数量や図形 についての 技能	数量や図形 についての 知識理解	数学的な 考え方	数量や図形 についての 技能	数量や図形 についての 知識・理解
全国	78.6	45.9	77.7	79.7	45.4		48.6
県	81.0	46.0	80.3	80.9	45.6		48.4
日出町	83.0	50.0	84.1	82.7	49.1		52.2

○平均正答率は、知識、活用ともに全国を上回っている。

○観点別正答率は、A問題、B問題ともに全国を上回っている。

○B問題では、「2けたの引き算の答えをもとめることができるきまりを書く。」問題では無回答率が、17.8%（全国14.9%）で全国と比べても高い。また、5-2「身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量に近いものを判断し、その判断の理由を言葉や式を用いて記述できる。」問題では、正答率が15.2%（全国13.2%）と低く、記述式の問題に課題が見られる。

○正答率が60%未満の児童の割合は、A問題では10.1%（全国14.7%）、B問題では、66.3%（全国70.3%）であり、特にB問題において下位層の底上げが課題である。

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校）

1 調査結果の分析

中学校：国語

※赤数字は全国の正答率を下回るもの

中学校 3年生 国語	平均正答率		観点別正答率								
	知識	活用	A：主として知識				B：主として活用				
			話す聞く 能力	書く能力	読む能力	言語について の知識 理解技能	国語への 関心・意欲 態度	話す聞く 能力	書く能力	読む能力	言語について の知識 理解技能
全国	77.4	72.2	75.4	85.7	73.8	77.2	55.9	72.4	60.8	72.1	41.4
県	79.0	73.0	75.9	86.6	74.6	79.8	56.1	72.3	60.8	73.1	42.1
日出町	77.0	69.0	71.5	84.2	70.7	78.7	52.2	67.7	58.1	69.7	39.4

- 平均正答率は、知識、活用ともに全国を下回っている。
- 観点別正答率は、A問題では、「言語についての知識理解技能」を除いては全国を下回っている。またB問題では全ての観点で全国を下回っている。
- A問題の、「話し合いの記録として適切な言葉を考える。」が、正答率33.5%（全国35.8%）で、全国正答率に比較しても下回っている。
- B問題では、「比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く。」では、正答率が39.4%（全国41.4%）で無回答率も18.1%（全国14.3%）も高く、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと（記述）に課題が見られる。
- 正答率が60%未満の生徒の割合は、A問題では18.7%（全国16.5%）、B問題では、34.6%（全国27.8%）であり、全国と比較して割合が多く下位層の底上げに努める必要がある。

中学校：数学

※赤数字は全国の正答率を下回るもの

中学校 3年生 数学	平均正答率		観点別正答率				
	知識	活用	A：主として知識		B：主として活用		
			数学的な 技能	数量や図形 についての 知識・理解	数学的な 見方や 考え方	数学的な 技能	数量や図形 についての 知識・理解
全国	64.6	48.1	68.2	60.2	36.8	61.2	85.1
県	64.0	47.0	68.0	59.5	35.6	57.6	85.9
日出町	63.0	45.0	65.8	58.8	34.2	53.7	83.3

- 平均正答率は、知識、活用ともに全国を下回っている。
- 観点別正答率では、特に「数学的な技能」において7.5ポイント全国の正答率を下回っている。
- A問題では、「円柱の体積を求める」「証明で求められている三角形の合同条件を書く」など、全国と比較して8ポイント以上の開きがあった項目が4項目あり、基礎・基本の技能の定着に課題がある
- B問題では「2つの角の大きさが等しいことを、三角形の合同を利用して証明する。」問題の正答率が31.1%（全国44.1%）で、全国と比較して13ポイントも低く、筋道を立てて考え、証明すること課題がある。また、記述式の問題の正答率が全体的に低いことから、数学的な表現を用いた説明の仕方について、指導方法を工夫する必要がある。
- 正答率が60%未満の生徒の割合は、A問題では45%（全国37.8%）、B問題では、68.1%（全国20%）である。全国と比較しても割合がかなり高いことが課題であり、対策を考える必要がある。

2 具体的な改善方法

学校全体で取り組む授業改善

- 各学校の授業改善における検証指標をもとに検証を行い、成果と課題を明らかにしながら PDCA サイクルを機能させる。
- 生徒指導の三機能を意識した問題解決的な展開の学習や、つきたい力を明確にした言語活動を重視しながら、学び方を育む学習活動を充実させる。
- 全教員による互見授業を実践・推進する。各学校の取組指標にもとづいた授業を行う。一人が年間5回以上は行う。
- 授業観察チェックシートを活用し、観察後は、校長、教頭で、必ずシートを基にした指導を行う。
- 全教員で互見授業や校内研究授業の際、活用型の授業実践を積極的に行う。
- 校内研修時に活用型の授業について、B問題や全国学力学習状況調査授業アイデア例などをもとにしながら、授業研究を行う。
- 指導過程の中で意図的、継続的に自分の考えをまとめ、発表させる場を設け、表現力を育成する。

習熟の程度に応じた指導の充実

- 小学校では4, 5, 6年生の算数、中学校では学校の実態に合わせて、数学、英語で実施する。
- 補充学習については、小学校では放課後の時間を計画的に設定し、中学校では、放課後、職員室前の机や少人数教室等を利用した取組を実施する。
- 授業における評価基準を明確にし、個別の指導や支援方法を工夫する。また授業の終わりの「ふりかえり」で、つきたい力が身についているかを確認し、必要に応じて個別指導を行う。

学力向上支援教員等の授業から学ぶ

- 学力向上支援教員（小学校；国語、理科 中学校；数学）、習熟度別指導推進教員（小学校；算数 中学校；英語）の公開授業に、一人最低1回は参加し、学んだことを各自の実践に生かす。
 - ・公開授業の事後研には、原則参加し、実践の交流を図る。
 - ・指導案、指導計画、ワークシート等作成したものは、町の共通ホルダーで共有し、活用出来るようにする。

中学校教科部会の充実を行う

- 部会内での授業研究を実施し、授業改善へ向けた取組を推進する。
- 国語、数学部会においては、全国調査B問題について、部会で分析、授業での活用を行い、実践結果を交流する。

町標準学力調査を活用する

- 12月末に、小学校4年生～中学校2年生全員を対象に実施する。（小学校は、国語・算数・理科） 中学校は、国語・数学・理科・英語・社会）
- 調査結果をもとに、各学校で1年間の指導の検証を行うとともに、年度末に向けての指導方針を明らかにする。

家庭、地域との連携

- 学習ボランティアの活用（小学校）
 - ・授業中のサポート
 - ・月一回の放課後補充指導 等
- 規則正しい生活習慣づくりのための「10（11）—7—1運動」を指導・啓発する。
- 家庭での読書を生徒会や児童会の図書委員会等と連携しながら推進し、読書習慣を確立する。

【 日 出 町 】

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

1 調査結果の概要

児童質問紙

全国平均と比較して特徴的な項目

《学習習慣・授業等に関すること》

- 「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の問いに、「そう思う」と答えた児童は37.8%で、全国平均より7.8ポイント高い。
- 「5年生までに受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて、ねらい）とまとめを書いていたと思いますか」の問いに、「そう思う」と答えた児童は、74.8%で、全国平均より5.9ポイント高い。
- 「5年生までに受けた授業で友だちとの間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますか」に対して、38.1%の児童が、「そう思う」と答えており、全国平均に比べ3.5ポイント高い。
- 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾、家庭教師に教わっている時間も含む）」に対し、「1時間以上」と答えた児童は76%で、全国と比較すると11.7ポイント高い。
- 「友だちの前で自分の考えを発表することは得意ですか。」の問いに肯定的に答えた児童は、全国と比較して、5.6ポイント低い。
- 「先生は授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれますか」に対して「そう思う」と答えた児童は、40.4%で、全国平均より10.1ポイント低い。
- 「5年生までに受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか」に対し「そう思う」と答えた児童が47.8%で全国平均と比べ10.8ポイント低い。
- 「総合的な学習の時間に自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と肯定的に答えた児童は55.9%で、全国平均より13.9ポイント低い。
- 「5年生までに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」に対して「そう思う」と答えた児童が32.6%で全国平均と比べ7.7ポイント低い。

《生活習慣・自尊感情等に関すること》

- 「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために学校図書館・や地域の図書館にどれくらい行きますか」に「週1～3回」、「週4回以上」と答えた児童を合わせると25.1%で全国と比較すると9.5ポイント高い。
- 自分にはよいところがあると肯定的に思っている児童は、全国平均より4.2P低い。
- 先生はあなたのよいところを認めてくれていると肯定的に思っている児童は、全国平均より6P低い。

全国平均と比較して特徴的な項目

《学習習慣・授業等に関すること》

- 「1. 2年生の時に受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたか」の問いに、肯定的に答えた生徒は93.3%（昨年度60.1%）で、昨年と比較して高くなっており、全国平均より5.5ポイント高い。
- 「ノートに学習の目標とまとめを書いていた」と肯定的に答えた生徒は94.8%で、全国平均より14.5ポイント高い。
- 「友だちの前で自分の考えを発表することは得意ですか。」の問いに肯定的に答えた生徒は、51.6%（昨年度39.5%）で全国平均に比較してやや高く昨年度と比較しても高くなっている。
- 「平日、家で1時間以上勉強する」生徒は77.9%で、全国平均より8.3ポイント高い。また、「土・日に1時間以上家庭学習に取り組む」生徒は63.4%で、全国平均よりも21.6ポイント高い。
- 「家で、学校の宿題をする」と肯定的に答えた生徒は、95.2%で、全国平均より5.7ポイント高い。
- 「家で学校の授業の予習をしている」と肯定的に答えた生徒は、16.5%で全国平均より15.2ポイント低い。
- 「総合的な学習の時間に自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と肯定的に答えた生徒は48%で、全国平均より16.3ポイント低い。

《生活習慣・自尊感情等に関すること》

- ◇「普段、テレビやDVD等を2時間以上視聴する」生徒は、51.9%で、全国平均より2.8ポイント低い。また、「普段、テレビゲーム等を2時間以上する」生徒は、32%で、全国平均より5.6ポイント低い。しかし、「普段、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを2時間以上する」生徒は、31.8%（昨年度14.3%）で、全国平均より4.6ポイント高く、昨年度と比較しても割合が増えている。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の問いに肯定的な回答をした生徒は、91.7%で全国平均より1.1ポイント低い。
- 「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」と答えた生徒は、57.9%で全国平均より12.7ポイント低い。
- 自分にはよいところがあると肯定的に思っている生徒は、65.3%で全国平均より5.4ポイント低い。
- 「学校の規則を守っていますか」の問いに、「当てはまる」と答えた生徒は56.7%で全国平均より6.3ポイント低い。

2 日出町の児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

《学習習慣・授業等に関すること》

- 「学校で好きな授業がある」と答えた生徒の率は全国平均を上回っており、好ましい傾向にある。今後も、生徒指導の3機能を生かしながら、習熟の程度に応じた指導を含め、「分かる・できる授業」「楽しい授業」に取り組んでいくことが必要である。
- 1時間完結型授業をめざし、各校で真剣な取組が行われている。児童生徒もそのことを理解し、学習に取り組んでいる。今後も、「新大分スタンダード」に則り、「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」のある授業を目指す。その際、児童生徒の主体的な学びを促すような課題設定や学習活動の工夫、次の学習意欲を喚起するような「ふりかえり」等の取組が必要になってくる。
- 小学生、中学生ともに、「話し合いの際、自分の考えをもっているか」について肯定的に答えた児童生徒の割合が低い。考えをもつための時間確保や個別の支援等について吟味する必要がある。
- 家庭での学習時間は、小学生、中学生ともに全国平均を上回っており、好ましい状況にある。特に、中学生は、平日、休日ともに大きく上回っている。宿題についてもきちんとした取組ができており、今後は授業で学んだ内容と家庭学習とのつながりを意識し、基礎基本の定着を図ることが重要である。
また、これまで取り組んでいる家庭学習の習慣化のための「家庭学習のすすめ」の作成・配布を引き続き行うとともに、家庭での協力が得られるよう、学級懇談等で啓発を行うことが重要である。
- 総合的な学習の時間のあり方については、全国平均よりかなり低い割合である。これは、児童生徒に責任があるのではなく、「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動」を行う授業が行われていないということを意味している。総合的な学習の時間の目標や趣旨を再確認し、授業改善を行う必要がある。

《生活習慣・自尊感情等に関すること》

- テレビやゲームに費やす時間は、全国平均と比較しても高く、基本的な生活習慣の確立の為に、改善が必要である。また携帯電話やスマートフォン、インターネットを利用する割合が増えている。これまでも、「10(11)-7-1運動※」「1日にテレビ、ゲーム合わせて2時間以内」の推進を行ってきたが、今後も、PTAと連携した取組(家庭でのルールづくり、読書や新聞を読む習慣、「家庭学習の手引き」の充実・活用促進による家庭学習の習慣の確立等)を行っていく必要がある。
- 自分にはよいところがあると思っている児童生徒の割合が全国と比べ低いことから、自己肯定感(自己存在感)を持たせるために、授業や特別活動をはじめとして、学校の教育活動全体の中で、生徒指導の3機能を生かした取組の充実が必要である。
- 中学生の規範意識については、道徳の時間をはじめとして学校の教育活動全体を通じて、豊かな心を育成していくことが重要である。

※午後10時(11時)までに寝て、午前7時までに起き、茶碗一杯(食パン一枚)の朝ご飯を食べようという運動。

【 日 出 町 】

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要

小学校：学校質問紙

全国平均と比較して特徴的な項目

- 授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れ、また、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れる活動は全ての学校が肯定しており、一時間完結型授業が定着している。また、授業で扱うノートに学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書くようにする指導が徹底している。
- 全ての学校で自校の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有するとともに、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用している。また、学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している。
- 発言や活動の時間を確保し、学級やグループで話し合う活動を授業などで行っている学校が多い。
- 算数においては、習熟の程度に応じた少人数指導や発展的な学習の指導等について、取組が消極的である。
- 「授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫し、発言や発表ができていない。」また、「学級やグループの話合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることが十分ではない。」と考えている学校が多い。
- 「近隣等の中学校と、教育目標を共有する取組を行っている。」と肯定的に答えた学校は1校のみで、他の4校は否定的な答えであり、県平均・国平均より肯定率がかなり低い。

中学校：学校質問紙

全国平均と比較して特徴的な項目

- 「生徒は熱意をもって勉強している。」「授業中の私語が少なく、落ち着いている。」と考えている。また、学習規律の維持が徹底できている。
- 「授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れている。」「授業の最後に学習をしたことを振り返る活動を計画的に取り入れている。」「様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導ができている。」と、全ての学校が考えている。また、授業で扱うノートに学習の目標とまとめを書くようにする指導も徹底している。
- 自校の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有するとともに、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用している。
- 数学の習熟度別学習が行われている。
- 国語や数学の授業において、コンピューター等の情報通信技術（タブレットや電子黒板等）、を活用した授業は、あまり行われていない。
- 「授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫し、発言や発表ができていない。」「学級やグループの話合いなどの活動で、自分の考えをしっかりと伝えることが十分ではない。」と、考えている。
- 近隣等の小学校と、意見を交換し合うなど、教員同士の交流は行われているが、教育目標を共有するまでの取組は行われていない。

2 日出町の学校質問紙調査の結果をふまえて

- 中学校においては、生徒は熱意をもって勉強し、授業中も私語が少なく、落ち着いて学習に取り組んでいる。また、学習規律の維持が徹底できている。学力向上のためには、このことが何よりも重要なことであるので、引き続き生徒指導の充実を図っていく。
- 「日出町学力向上推進委員会」を年3回実施し、各校の学力向上に係る取組状況や町全体の抱える課題解決の方策等の協議を行う。その際、「新大分スタンダード」に則った授業のあり方を周知徹底する。
- 小・中学校ともに、「授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫し、発言や発表ができていない。」また、「学級やグループの話合いなどの活動で、自分の考えをしっかりと伝えることが十分ではない。」という実態が見られるので、生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開の授業や教科のねらいに適した言語活動を重視しながら、学び方を育む学習活動の推進に取り組む。
- 「様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をした。」と全ての学校が肯定的に答えているが、現実とは若干異なると思われることもあるので、校内研究や学力向上会議への指導主事の参加を通して、教師一人一人の授業改善や授業力アップを図る。
- 「家庭学習の手引き」の充実・活用促進に引き続き取り組む。
- 習熟の程度に応じた指導の徹底を図るため、単元における評価規準を明確にし適切な支援を行うなど指導方法の工夫・改善を図る。